

学校名 深谷市立本郷小学校

所在地 深谷市針ヶ谷506

電話 048-585-4191

1 本校の概要

本校は、第3学年を除き単学級で構成された児童数193名の小規模校である。学区内は自然が豊かで、地域では農業・酪農が盛んに行われている。児童は明るく素直で、人懐っこく、保護者・地域の方々は学校の教育活動に協力的である

2 本校の実践

(1) 実践の視点

- ・ 読書に親しむ態度や読書週間に係る取組
- ・ 学校図書館等の環境整備の工夫

(2) 実践の概要

<読書意欲を高め、励ます学校・児童の取組>

ア 書く力の向上を図る『読書通帳』の取組と読書の励みの『表彰』

- ・ 本校では、読書カードに代わり、1冊読み終わる毎に感想やあらすじを記入する『読書通帳』を活用している。自分の思いや考えを表現する機会をつくり、書く力の向上を図っている。
- ・ 目標の冊数やページ数に達すると、「シルバーメンバー」「ゴールドメンバー」などの称号が与えられ、図書室に顔写真が掲示される。また、通帳が終了する毎に賞状がもらえる。担任や学校司書が確認し、校長に

提出する過程において称賛や励ましの声かけを行うなど、職員が連携して取り組んでいる。



イ 委員会活動を主とした読書月間の取組

- ・ 読書月間を学期に1回設定している。企画について委員会で話し合い、今年度は、様々な分野の本を借りてもらえるように、読書ビンゴや、分類によるポイント制を取り入れた。

- ・ 児童手作りのしおりや、本のカバーを利用したしおりを、読書月間の目標を達成した児童へ配布した。



ウ 「さくらブック」による読み聞かせ

- ・ 地域の方や保護者のボランティア（さくらブック）による朝活動時の読み聞かせをしている。

エ 朝読書

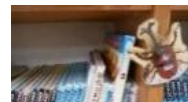
- ・ 毎週水曜日の朝活動で、図書室で借りた本を読む。

オ 職員参加のミニ研修

- ・ 図書室利用の仕方の再確認と、図書室にある本を知ってもらう機会を設定している。

<使いやすく、本を借りたくなる図書室を目指して>

- ・ 棚に本の種類を示すイラストを掲示した。



- ・ 本の配置を工夫し、目に付きやすく借りやすい環境をつくった。

- 図書室に入って正面の本棚には人気の本
- 読書月間には取組に関わる本のコーナー
- 入り口付近の棚の上には人気復活を図りたいシリーズものの本



- ・ 先生方による『おすすめの本の紹介』コーナーを設けた。



3 成果と今度の課題

(1) 成果

- ・ 書くことについての横断的な支援により、教科等の授業においても、自分の考えを記入できる児童が多くなった。
- ・ 目標達成時の顔写真の掲示や、賞状、しおり等が励みとなり、児童の読書量が増えている。
- ・ 読書月間や本の配置、掲示等の工夫は、児童が本に興味をもつきっかけとなった。
- ・ 地域の人材活用を通して、学校と地域とのつながりを深めることができています。



(2) 課題

- ・ 学校評価で「家庭での読書習慣が身に付いている」と回答した家庭は約半数と少ない。家庭を巻き込んで読書活動を広めていくことが今後の課題である。

(3) おわりに

児童が本にふれ、本が楽しいと思える機会を、保護者や職員がいかに与えてやれるかが、読書好きな子を育てる第一歩だと考える。今以上に、何ができるかを考えたい。